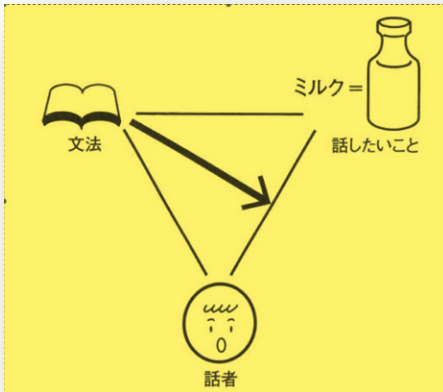


「臨床言語論入門～意味としての心」のご案内

「日本心理臨床学会 学会賞 お祝い会」から頂いた寄付を元に、日本語臨床研究会の趣旨「心について日本の文化、日本語、歴史から学ぶ」を受け継いで、2019年にスタートしたオンラインセミナーです。インターネットのビデオ会議サービス「Zoom」による「Webinar」を使い、原則的に北山修がパソコンやスマホの画面上でホスト（主宰）として司会し、そしてライブの講義（約45分）を担当します。受講者は、質問やコメントができますし、ご自宅でテレビのように受講していただけます。2022年-23年の「臨床言語論入門」全12回は本年9月から月一回のペースで開始しますが、欠席者や途中参加の方々は終了した講義を、後に音声データや期間限定の動画で視聴していただけます。

テーマ説明 フロイトの比喩で言うなら、「抑圧されたもの」とは、「内なる外国に他ならない」のです。この「内なる外国人」は母国語でもうまく喋れないものであり、私たちが理解するためにも「内なる外国語」の通訳や翻訳が必要になります。また、段階論で言うなら、言葉が出来事をそのまま意味していたところから、意味されたものの不在や裏切りによる、意味との「つながり」の喪失こそ言霊（ことだま）の幻滅です。さらには、明確化を目指す言語が、直線的論理、そして分類（分かる＝分ける）を通して、意識的な心から曖昧さや荒唐無稽などを「外国のもの」として排除していくのです。対して、詩的表現や非言語的な表現活動は、排除されたものや抑圧された「外国人」の入国を求める主張や反抗となりえますが、その通関には感染症の持ち込みの恐怖や不安が

伴うものです。そして、構造から排除される狂いや意味を混乱させる事態については、私たちは言葉の痛切な限界に直面せねばならないのです。それで今回は、実践的学習に向け希望と期待を引き受けながら、言葉の使用には意味が「通じない」「分からない」が伴うものであり、不明、無意味、歪み、偏り、誤解の「空しさ」や難しさを何度も噛み締めねばならないものとして提示します。言葉のない臨床はありえませんので、その意味で私の作詞家としての分析的治療者としての総合の企てとなることでしょう。（←前年度の「三角関係を生きる」で紹介した言語構造の三角形を思い浮かべてお聴き下さい。）



日程とプログラム 2022年9月5日から約一年間かけて、原則毎月第一月曜日に、12回のライブ配信で夜8時から1時間半開講いたします。欠席や途中参加の場合は、終了した講義を音声記録やレジュメで振り返っていただけます。さらに動画記録は、冬春夏のお休み期間中に期間限定で視聴していただけます。

- ① 2022年9月5日 「気付き」の物語：その起承転結（指定：飯島みどり）
- ② 10月3日 心身両義性を学ぶ：言葉の身体性とその脱身体化（討論：笠井さつき）
- ③ 11月7日 「通じる／通じない」：言語の錯覚と幻滅（討論：西村佐彩子）
- ④ 12月5日 時間をかける：「いること」を抱えること（討論：工藤晋平）
- ⑤ 2023年1月9日（第2月曜日）無意味を味わう：脱錯覚と「はかなさ」の美（討論：岡田暁宜）
- ⑥ 2月6日 生々しいことを言葉にする～タブーを超えて～（討論：石川与志也）
- ⑦ 3月6日 世界の多義性を食べて味わう小説『鯨』（討論：国文学者・橋本雅之）

- ⑧ 4月10日(第2月曜)「わたし」～三点観測と総合性～(討論:鈴木菜実子)
- ⑨ 5月1日 症例提示:「言語化の病理として上滑りの空虚」(討論:荻本快)
- ⑩ 6月5日 中立の両面性と中間性～のりくらりとわたし～(討論:岡村斉恵)
- ⑪ 7月3日 「父の名」の機能:自分の言葉で語るということ(ゲスト講師:小林芳樹 討論:北山)
- ⑫ 7月31日(7月第5月曜) 総括～二者言語の専門家として～(討論:西見奈子)

また本年度受講生である間、希望者には、追加料金で2020-21年度の「劇的精神分析入門」、21-22年度の「三角関係を生きる」の音声データをアーカイブ聴講していただけます。

参加資格 原則として臨床の専門家か対人援助職に限ります。1)過去に北山 Webinar を受講された方は、簡単に継続の申し込みができます。2)新たに参加されたい場合、講師や受講生の推薦のある時や、北山が講師となっている専門家向け研究会・セミナーの受講者で、その参加者として承認された方は、簡単な履歴と参加動機を述べる文書を提出して下さい。(公開講座など無料の会は除く)3)推薦者もなく北山と面識がない新規の申込者は、簡単な経歴と参加動機を述べる文書、そして身分証などご本人が確認できる写真やデジタルデータを事務局まで送って下さい。

定員 約250名(昨年度は240人が登録)

受講料 過去の受講生には、12回分受講料として12000円いただきます。新規申込者は、登録費2000円と受講料の合計14000円を一括してお支払い頂きます。また20-21年度9回と21-22年度13回の音声データ(2年分)に関して、アーカイブ聴講をご希望の場合はその旨追記して下さい。追加料金2000円を納入されると、本年度受講生である間、アーカイブ聴講して頂けます。

申し込み手続き お申し込みはメールにて8月20日までをお願いします。参加希望者は全員、お名前、ご所属、ご職業とメールアドレス、アーカイブ聴講の希望の有無、そして参加資格(上述の1)2)3))の番号を記した参加申込書(形式は自由)を事務局にお送り下さい。2)の新規に申し込まれる方は、そのほかに推薦者のお名前あるいは参加された専門家向け講義・研究会の名前に加え、簡単な履歴と参加動機を述べる文書を提出して下さい。3)の場合、簡単な履歴と参加動機の提出に加えて、身分証提示をお願いします。身分証提示はご所属先のIDカード、学会員証、免許証のほか、お名前が公的に確認できるものであれば大丈夫です。身分証提出に抵抗のある方は、ホームページなどの自己紹介やオンラインの面接を利用することもできます。Webinarは直接顔が見えないシステムなので、ご本人確認で少し手間取りますが、よろしく願いいたします。お申し込みが承認されたなら、講義計画の最新版を添付し参加料の振込先をお伝えしますので、ご確認の上ご入金下さい。入金を確認できたなら、事務局から参加のための「ご注意」の文書をお送りし、講義の約一週前に受講の招待メールを送信します。

申し込み、問い合わせ先 Webinar事務局 田村 アドレス webinar@okitayama.com

注意 ・許可を得ないで個人的な使用を超えて中身を拡散することや著作に引用することは禁止します。・終わってしまった講義は、原則的に当該年度の閲覧を「音声のみ」可能にし、動画記録は夏冬の休みに期間限定で視聴できるようにしています。そのために録画しておりますが、精神分析は「耳」を研ぎ澄ます学問ですので、音声データによる振り返りを推奨します。・何かの不具合で、招待メールが届かないことが稀に生じておりますが、その場合は講義の数日前までに必ず事務局に問い合わせして下さい。欠席については、後日の音声配信や動画視聴で対応しておりますが、受講料の返金はいたしかねます。・このシステムは完全ではなく、予期せぬ事故は受講者のご協力を得ながら解決して参りたいと思います。・具体的な議論の様子は「北山精神文化研究所」のFacebookをご覧ください。

<https://m.facebook.com/北山精神文化研究所-280588385652212/> (2022年6月14日)